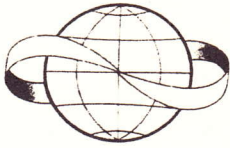


ヴィーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第22号
(平成14年新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町 1-16-18
Tel&Fax 042-395-9788

謹んで新春のお慶びを

申し上げます。

躍進中国を見て学ぶこと

新世紀に入り、世界中で新たな変化が始まった。

わが国も政府の構造改革を尻目に、経済の基盤や産業構造そして国民意識が既に大きく変わっている。新年を迎えて、良い方向に変化するのかは、各人の意識の持ち方によって差が出てきそう。

リサイクル事業も、回収の徹底と国内産業の空洞化で再生資源が余剰化し、海外に還元する輸出事業の促進を迫られた。既に鉄スクラップは、昨年六百万トン近く、古紙も百四十万トンを超える史上最高の輸出をした。その他にもベクトボトルをはじめ廃プラスチックなども大量に中国に輸出している。この三年間で韓国・タイ・ベトナム・中国とアジア各国を実際に視察して見て、各種製品の海外生産拡大を強く感じた。

特に昨年十一月に訪れた中国の上海市は、予想をはるかに超えた発展振りで、まさに世界の工場に変身中であることが解った。

超高層ビルや塔が林立し、ただ高台だけではなく奇抜なそして色彩豊かな設計で魅了していた。

市郊外には、地平線が見えるような工業団地が広がり、その外側には延々と田園地帯が続いている。そこに世界中の大企業がオフィスを構え、合弁工場を建設している。

無尽蔵に近い低賃金労働者や地価の安さ、それに各種税金を加味した事業設営コストは、我が国の二〇分の一程度で済むと言う。

経済産業省幹部に「まるでブラツクホールのように日本企業を呑み込んでゆく」と言わしめたのも頷ける。

さらに日本からの経済的・技術的支援のお陰で、設備や技術者が整って安くて高品質な部品や製品の大量生産が可能になったと現地駐在の商社員が話していた。

自動車各社は中国でのコピー車を手を焼いていたが、いずばはその品質の良さに注目し、合弁会社をつくりトラックを逆輸入して自社ブランドとして販売すると言う。

ホンダもヤマハも、二輪車にコピー部品を採用し五〇〇〇バイクを逆輸入するといっている。

さらに中国のWTO加盟を機に各種主要メーカーの中国進出に拍車がかかるというのだ。

しかし中国の急速な反映のかげには、低所得で質素な生活をしていく大多数の国民がいた。

郊外に建つ公団住宅も田園に点在する農家も、その殆どが窓にカーテンが無く明かりもついていない。まるで廃屋にしか見えないのだ。聞くと一番小さな部屋に家族全員が団らんし、電気や暖房の節約をして暮らしていると言う。車は勿論電化製品も高嶺の花のことだ。中国経済の繁栄は、中国国民には殆ど行き渡っていない。と言うよりも、ただ先進国の衣食住を支えるために利用されているようにさえ思えた。

アジアに住む二十億の労働者の生活がレベルアップしたら地球資源の配分や使い方を根底から変えなければ成り立たないのも明白だ。我が国の循環社会基本法に列記された発生抑制策・再使用・再利用を、中国は完全に実施していた。金属類・紙・布・プラスチックあらゆる資源を人海戦術で再生しているのだ。日本はどこまで逆もどりできるのだろうか。世界中の貴重な資源を大量消費し、何とか再生資源として回収しても、廃棄物扱いにしなければならないような日本の今が、余りにも異常であると気づくべきだ。そしてアジア諸国と痛みを分かち共生するグローバルな循環型生活環境を作らなければ、二一世紀は殺伐とした未来になりかねない。

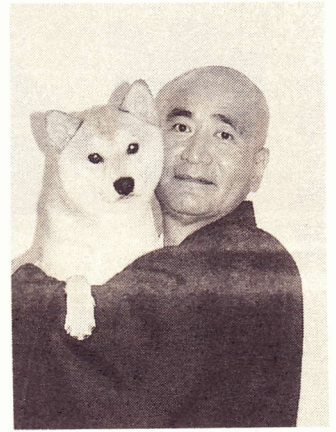
直言拝聴

リサイクルは菩薩行

宗教法人華蔵院代表役員

閑居山華蔵院興徳寺住職

淘快坊道玄



明けましておめでとうございませす。

淘快坊（とうかいぼう）道玄というお坊さんです。新年早お坊さんのお出ましかよ、と思われる方がいらっしやるやもしれませんが、お坊さんは実はおめでたいのです。

皆様に福徳長寿をさずける宝船あの七福神の中にお坊さんがいらっしやいます。

布袋和尚（ほていおしょう）という七福神の中でただ一人実在した、中国は後梁（こうりょう）時代の坊さんです。

又お正月には松がつきものですが、その松へ二重坊主（にじゅうぼうず）でなくつたつてカスでも坊主がくればよろカブしいことになるでしょう。ということでおめでたいお坊さんが、物の再利用ということについて一口（ひとくち）申し上げます。

“もの”というのは、マッチ棒の頭から宇宙全体全て例外なしに生じては存続し、やがて変化し、そして滅（めつ）していきます。

これを人間でいうと生老病死、ということになるのですが、そのところはおいといて、この“もの”がその主たる目的を全（まっとう）した後（のち）、その“もの”

に再度命（いのち）を与え役だたせるといふ行為が再生、再利用という仕事です。

私は今仕事という言葉を使ってしまうましたが、これは行（ぎょう）でもあるのです。なんの行（ぎょう）かとお申しますと、有難い有難い菩薩（ぼさつ）の行（ぎょう）です。

菩薩と申しますと、どなたもご存じの観音様やお地藏様といった如来（にょらい）のお使いとして人々を救済していく佛様のことです。

ものに再び命（いのち）を与える行為は、その菩薩と同等の行（ぎょう）であると私は思っております。なぜならば、この世は全てを生かす為（ため）に存在（そんざい）しており殺す為（ため）に存在（そんざい）していないことを自（みずか）ら確信（かくしん）しているからです。

結論（けつろん）だけ言（い）って論証（ろんじょう）は省略（しょうりゃく）いたしますが、この世の一切（いっけつ）の“もの”は生きている“もの”も生きていない“もの”も共に佛様（ぶつ）のお身体（からだ）（からだ）の顯（あら）われでありその一部（いちぶ）です。

そのもつたない佛様（ぶつ）のお身体（からだ）（からだ）の一部（いちぶ）をゴミとしてではなく、再び人々（ひと）の約（やく）に立つ“もの”として世（よ）に出（い）す事は実（じつ）に他（た）を利（り）する行為（ぎ）です。これを利（り）他（た）（た）

の行（おこ）ないといい、又その事（こと）によつて自（みづか）らの生活をより善（よ）く生きる行為（ぎ）を自利（じり）の行（おこ）ないといひます。

この自利（じり）と利他（りた）が円（まる）（まる）やかに溶（と）け合（あ）つて一（ひと）つであることを自利（じり）利他（りた）円満（げんまん）（げんまん）（じりり）たえんまん）といい、こうなるともはや菩薩（ぼさつ）行（ぎょう）（ぼさつぎょう）といつてよいのです。

でもまあそう構（かま）（かま）えずとも、この仕事をやつておれば日々ときめいて生きていけることを私はよく知（し）つております。

我々（われわれ）は日々ときめいて生きる為（ため）にこの世（よ）に生まれましました。それでそのついでに生活（せいかつ）するだけのお金（かね）が入（い）つてくればいいんです。

眼（まなこ）のいろ変（か）えてお金を追（お）つかけて追（お）つかけて、たとえそれが手（て）に入（い）つたとしても、今度はこれが滅（めつ）（へ）るんじやなかるうか、あれが盗（ぬす）（と）られはしないだらうか等（ら）と日々（ひび）氣（き）をもんでせつかくの生活（せいかつ）が暗（く）いものになつたら何（なに）にもならんでしよう。

それよりも、今度はどんな“もの”に命（いのち）を与（あ）えようか、又（また）どんな“もの”に出（い）会（あ）えるのだらうか等（ら）と日々（ひび）ときめいて生（な）きた方がとくにきまっています。

私がなぜ“もの”の再利用（さいりよう）にか

かわる仕事がときめきのあるもの
だということを知っているのかと
申しますと、私自身小学生の頃、
淘屋（よなげや）のおじさんとス
コップと箆（ざる）を持ってよく
ドブ川を遡行（そこう）したこと
があるからです。

昭和三十年頃、東京にはたくさ
んのドブ川がありました。当時日
本は戦争に大負けに負けた後（あ
と）ですから、ドブ川に蓋（ふた）
などする余裕はなく、ドブ川には
いるんな“もの”がおっこちてお
りました。このドブ川に長靴をは
いて入りこみ、スコップでヘドロ
をとっては箆（ざる）に上げそれをドブ川
の流れで淘（よな）いで鉄屑を拾
うという、アラスカはユーコンリ
バーの砂金採りもかくやと思われ
るロマン溢れるときめきの仕事
が淘屋（よなげや）です。

私はこの頃から今も淘屋ではあ
るのです。なぜかと申しますと佛
法の法とは、シ（さんずい）に去
るとかくが如く水の去る姿にあり
ます。その佛法で自心を善く淘（よ
な）ぎ、悪い“もの”を捨て、良
い“もの”を拾う、当時とは姿形
は違っておっても心ときめく淘屋
（よなげや）ではあるのです。
ですから名前も淘（よな）ぐこ
と愉快なり、で淘快坊です。

私は佛法に深く重いを寄せるお
坊さんですから“もの”の再生、
再利用ということを仏教的に観
（み）て菩薩行（ぼさつぎょう）
だといきつてしまふのです。

我々は、どなた様も因縁熟（い
んねんじゅく）して無限の大生命
（だいせいめい）エネルギーの中
よりこの世に生じてきます。

そしてひとたび生命（いのち）
が人として生きる時、その対象物
は例外なしに全て有限です。

いつ迄も生き続けたいと願って
もその対象である肉体は有限です。

資源である物も又有限です。自
らの生命（いのち）の再生は、自
らが無限の過去から持つ因果の理
法によりいかんともしがたくとも
資源である物の再生、再利用は
我々の創意工夫、努力で何んぼで
も可能です。

大いなる欲を持ってこの資源の
再生、再利用という業（わざ）を
なすならそれは誠に佛様の御心
かなうことです。必す生成発
展（しょうなりはってん）いたし
ます。

欲といいますが、佛教は欲を否
定する宗教ではないのか等（など）
と思われておりますが、そんなこ
とはありません。

ボランティアで人の役に立ちた

いというのも欲ですし、お釈迦様
がさとうとしたのも欲ですよ。

自分だけが、自分の会社だけが
よくなればよいという、自分とい
うちっぽけなものに限られた我欲
（がよく）は否定されるべき小欲
（しょうよく）ですが、佛様のお
身体（からだ）の一部である大切
な“もの”をゴミでなく宝とする
行（おこ）ないは、自ら意識せず
とも大いなる欲であり、これには
お金で買えないおまけがきます。

それは大いなる希望であり日々
のときめきです。
「オラは希望もねえしときめい
てもいネー」という人でも大丈夫。
その人の心の奥底、深層意識中
の自己はしっかりとときめいており
ます。

この求めずとも得ることのでき
る利益（りやく）を佛教では不
自得（ふじとく）の利益（りやく）
といいますが、この利益（りやく）
やく）多大なる業界紙の年頭にさ
いし、一口（ひとくち）申し上げ
るご縁がありましたので私もこの
一年何か善いことあるでしょう。

とりとめもないことを申し上げ
てまいりましたが、ここで皆様の
益々のご多幸を祈念し筆をおきた
いと思ひます。

合掌
淘快坊道玄



組合員新年の抱負

理事長 紺野武郎

昨年十一月で還暦の大台に乗り、いつの間にか「この道三十五年」になってしまった。

青春の意気を感じて飛び込み、信念を持ってただ夢中に突き進んできた資源リサイクル業。

改めて後ろを振り返って見た。

多くの方々の支え教えを頂いた。共に苦勞してきた友が逝った。

二世・三世の若者たちが、あとについて来てくれた。

誰かが絶対に続けなければならぬ仕事だ。今年も心ひとつにしてみんなでガンバロウ！

副理事長 藤本俊光

今、アメリカとアメリカの国民は大変だ。日本も今、経営者と勤め人は大変だ。私達再生資源業界も今は大変だ。この逆境を誰が乗り越えて行くのか見守って行くしか手がないのか？

副理事長 奥山賢児

昨年は小泉政権がスタートしたが米同時多発テロや狂牛病など暗い事件が多い一年でした。そして藤野副理事長を失ったことは最も重く心に残ります。昨年は下がり

続けた古紙の価格も回復することを期待して今年も頑張りたいと思います。

専務理事 萩原貞雄

明けましておめでとうございませう。

二〇〇二年。今年は試練の年であらう。皆、一致団結してこの苦境を乗り越えていきたい。又、組合員の一人としてがんばります。

理事 古川敏雄

古繊維業界は、近年低迷が続けて居りますが、今年こそは良い打開策が生まれることを考えてます。このような不景気な時代こそ力を合わせ、力まず組合事業、又、商売・仕事に向き合って行き、実を結ぶことが出来れば良いと願っています。今年も健康に留意し頑張ります。

理事 土井益次郎

新年明けましておめでとうございませう。

米同時多発テロ、狂牛病など暗いニュースが続く、再生資源類もそれぞれ史上最低価格をさらに更新しています。

二〇〇二年は集団回収の充実をさらに進め輸出事業など組合に協

力して実施して行きたい。

理事 川島正行

謹んで新年の御よろこびを申し上げます。

昨年中は、皆様いろいろなとお世話になりました。厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしく御願致します。

理事 小畑和夫

昨年、集団回収事業は、古紙価格がゼロになるまで下落し、いままでにない最悪の状況です。しかしながらこのリサイクルシステムは絶対に守っていかねければなりません。組合が各市に要望している業者助成金の見直しを認められることを、再度働きかけ、市民や回収団体と協調しながら集団回収を維持・拡大するよう頑張りたいと思います。

理事 古山 忠

謹んで新春の御祝詞を申し上げます。

市職員の方々の暖い御指導を頂きながら、組合員及び各従業員の皆様の御協力・御支援を御願ひ致し、より一層組合のリサイクル活動に専念致しますので、宜しく御願ひ申し上げます。

理事 長沢常憲

この業界に入り、初めて新年を迎えますが、昨年は四月にヤードを引き継いだあと、買入価格下げの連続で、「あなたが来てから良い事は何も無いね」と言われる始末で、取引先の皆様にはご苦勞をかけたままの年でした。

今年は価格が回復すること、少なくとも昨年下がった分は上がることを期待しております。そのためには国内、輸出共に安売りをしないこと、業界が纏まること、不可欠だと思います。東多摩再資協のメンバー諸兄と共に纏まらないと言われている業界に一石を投じたいと思います。

理事 吉浦高志

荒波を砕いて進む

東多摩

夢と希望を提案する広報委員会にするぞ

理事 水野 勇

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年暮れより皇室の祝い事と共に光の見える新春である事を期待し、本年も人材の育成・社内の活成を基本に企業努力をしてまいります。

理事 藤野祐子

長いトンネルから抜けて明るい太陽が見られる日が、この業界に一日でも早く来てほしい。

監事 渡辺一史

産業の空洞化、古紙の価格暴落等、昨今の状況は惨憺たるものがありますが、今こそ資源有限を意識するときではないでしょうか。以前にも増して「自然にやさしく、人にやさしく」を念頭に、地域社会への貢献が必要です。将来を見据えて強くたくましく進んでいきたいと思えます。

監事 石川義雄

新年明けましておめでとうございます。今年も厳しい世の中になると思いますが、気持ちを合わせて今年も組合の仕事頑張ります。

青年部 土井健一郎

新年明けましておめでとうございます。暗いニュースばかりの一年間でしたが、わが組合青年部には、朗報もありました。久しぶりの新青年部員の誕生です。しかも当組合理事長のご子息である紺野琢生君と、故藤野副理事長のご子息であ

る藤野理広君です。今年は力強いパートナーとともに、各リサイクル関連施設等の見学、研修などを行なっていきたいと思えます。

青年部 奥山慎吾

今年は2002年サッカーワールドカップが開催されます。1968年のメキシコオリンピックで銅メダルをとつて以来鳴かず飛ばずの日本サッカーがホスト国として出場します。頑張れ！中田英寿・頑張れ！小野伸二。

青年部 藤野理広

昨年は、前社長の入院、そして他界と身心共に打ちひしがれた年でした。だからこそ、今年は人一倍頑張つて業界に貢献し、どこかで見ているであろう前社長を心配させない様頑張りたいと思えます。

青年部 紺野琢生

昨年は会社の仕事でいっぱいばいばいで課題を山積みにしたまま過ぎ去っていききました。今年古紙業界に限らず、古繊維、鉄非鉄、産業廃棄物などの知識を深め、東資協青年部、東多摩再資協広報委員活動を通して業界のために貢献していきたいと思えます。

市民の声 Q & A

Q. ペットボトルを回収に出す際にキャップを外すようになっていますが、同じペット樹脂なのに何故キャップを外さなくてはならないのですか？

(小平市 高橋健二さん)

A. 容器包装リサイクル法では『PETボトルについて自治体の分別収集、消費者の分別排出の際、キャップをとり、洗ってつぶしてから出すこと』と決められています。これはおそらくペットボトルが当初は金属製のキャップが多かったからだと考えられます。今でもごくたまに見かけることがありますね。

実際問題としてペットボトルにペット樹脂のキャップが混ざっていたとしてもあまり問題はないと思えますが、法律で決められているために、納入先から返品をされることがあるのです。

なぜならば、キャップがついているために中がよく洗われていなかったり、同じペット樹脂でも使用されている添加剤が違うなどの問題もあるらしいからです。しかし、キャップをとりはずして

いたら、リサイクル率はなかなか向上しません。尚、容器包装リサイクル法も見直しが検討されており、この問題も俎上に上っています。

地球にもお尻にも優しい！

化学薬品を一切使わずに漂白！

地元で集められた雑古紙を100%使用！

トイレトペーパー

「フーメラン」(100m巻)

1ケース(100ロール入り) 4,000円

東村山市・西東京市の公共施設、小中学校、保育園等で本格採用中！

中国「景興紙業」視察団報告
古紙の大需要見込める中国

製紙工場の大規模化加速

●はじめに、なぜ中国を視察したのか。

昨年一月から国内古紙価格の暴落、製紙会社の生産調整による需要の落ち込みから低迷する古紙の販路として輸出が検討されていた。そのような折、六月に行った組合研修会の講演で、中国は紙・板紙生産が日本を抜いて世界第二位に迫っており、大量の古紙を輸入し、今後も需要は増加の一途をたどる事が解った。

又、東資協が輸出に活路を見出すと九月から試験的に中国輸出に積極的に取り組んで来た。

当組合も独自に古紙輸出の展望を見出し、本格的な輸出事業を見据えて中国の製紙事情をこの目で確かめようとなり、組合員である紙パ資源(株)とその親会社である日本紙パルプ商事の協力を得て日本製紙、日本紙パ商事が共同出資している上海の製紙会社、浙江省平湖市にある景興紙業を一月二三日二六日にかけて視察した。

●通関後のコンテナヤード視察
上海に着いた日に港湾施設と

コンテナヤードを視察予定であったが、港湾施設は時間の都合で視察できなかった。急ぎコンテナヤードに向かった。ここは通関後のコンテナを一時的に保管するヤードで古紙以外の物、車のエンジン、モーター、ペットフレックなども目にとまった。ヤードには船積み用の大きなコンテナ二、三百個が何段にも積んであった。

コンテナは日本、東南アジア各国、アメリカなどさまざまである。半分ほど古紙が詰まっていたコンテナがあり、質問したところあと半分は製紙会社を買っていったという。ここで必要なだけバラ売りもするとの事だった。アメリカのミックス古紙には、ペットボトルや缶、その他の異物が混入している古紙プレスがあり、選分を疑うようなひどい物もあった。

●景興紙業視察
景興紙業は上海から南西一〇〇kmほどの浙江省平湖市に位置し、別表に示すように八社のグループ企業である。
昨年六月、景興紙業は日本製紙、

日本紙パルプ商事との合弁事業を発表した。段ボールのマシン(年二〇万トン生産)を設置し、技術指導
は日本製紙、原料調達、製品販売は日本紙パルプ商事が担当する予定である。

○景興紙業の概要

1984年8月設立・代表者：朱 在龍 董事長・住所：浙江省平湖市
現在の生産量：12万トン/年(抄紙機8台 ライナー、中芯)
OCC使用量：5万トン/年(米国品80% 欧州、香港品20%)

<グループ会社 8社>

1. 浙江景興紙業集团有限公司(製紙会社)、
2. 浙江景興紙業集团平湖熱電廠(電力会社 電力、蒸気供給)、
3. 浙江景興紙業集团包装材料廠(段ボール加工)、
4. 浙江景興紙業集团紙管有限公司(紙管)、
5. 浙江景興紙業集团造紙有限公司(製紙会社 2001/12 竣工)、
6. 浙江景興紙業集团紙蜂制品有限公司(ハニカムボード)、
7. 景興通用印刷有限公司(商業印刷、紙器加工)、
8. 新型紙模有限公司(パルプモールド製品)



本社会議室で、朱 董事長（社長）から会社の現況と将来的展望を説明していただいた。

当社は、現在段ボールのライナー・中芯を年間一二万トン生産しているが、原料となる段ボール古紙一万吨のうち八〇％は輸入で、その大部分はアメリカ産である。地理的にも近く、選分も優れている日本からの輸入を増やしたいのだが、接着剤（ホットメルト）が多いのが難点だということであった。

二〇〇五年には五〇万トン、二〇一〇年には一〇〇万トンの工場を稼働させる予定だという話があった。上記の合併事業もこの増産計画の一部である。

会談の後、芸副董事長に現在八台のマシンが稼働する本社工場を案内していただいた。原料置場ではバラ段ボール古紙の山に渡り板を架け、モッコで運び上げていた。その山で十数名の女性労働者が選別作業をしていた。選別され原料となる段ボール古紙は、パルパー（溶解炉）までリヤカーで運ぶらしい。豊富な労働力のなせることなのだろう。水路が多い所なので、小船に積んだ段ボールを荷卸しながら計りにかけ、取引きをしている場面に出会った。中国では、

プレス機を備えた古紙問屋がなく、個人がバラ物を直接製紙工場に持ち込んでいた。この工場では、一ヶ月分の使用量に当る八〇〇トンの古紙が常にストックされており、従業員は八五〇人で、交替制勤務で生産に当たっている。

次に朱董事長自ら案内していただいた二〇〇二年四月稼働予定の新工場は本社工場から車で一〇分ほどの所に位置し、グループの電力会社の側にあつた。敷地は二二万mあり、排水処理をはじめ各設備が建設中であつた。マシン建屋はコンクリートが打ち終わり、二階の製紙マシン設置場所には広い空間に乾燥ドラムだけが既に据え付けられ、ワイヤー下にポツカリ空いた原料攪拌槽には巨大なスクリーナーが見えた。建築中でなければこの辺は中々見る事が出来ないのが興味があった。新抄紙マシンはドイツVOITH社製でマシン幅四八五〇mm、八〇〇m分の抄速で段ボール原紙を年間二〇万トン生産する計画。今後ヘッドボックス、ワイヤーパートはドイツから持ち込むとの事。

マシン建屋の隣接地の別棟に工事中の原料設備は相川鉄工が請負い、日本板紙の芸防工場と同様の設備になる。この原料設備が完成

すれば、日本製紙、日本板紙の技術指導も平行して行われるので、日本製段ボール古紙を使う事が出来る。

このマシンが稼働する二〇〇二年四月には原料のほとんどが輸入品になると見込んでいる。既存設備と合わせて二五万トン／年の古紙が必要で米国産と日本産を半数づつ使用する予定である。

四月の本格稼働に備えて二月から月一万吨ほど調達予定で、是非組合も協力してほしいとの事であつた。今後、日本との安定した数量取引を強く希望していた。

なお、上海では新聞のバラ物を製紙メーカーが1kg一元、日本円で一五円で引き取っているという。この国内価格と輸出価格の折り合いはどのように行われるのか今ひとつ判らなかつた。

●まとめ

景興紙業は国際都市上海の港にも近く、松江大工業団地に隣接し、高速道路、水路に恵まれ、地理的条件はととのつている。出資企業も中国一級の繊維と印刷事業を手がける茉織華株、先に述べた日本の二社も加わり資本面を固め、それぞれが事業の役割分担を確立するなど経営面でも着実に土台作りを終え、増大する需要に応えるよ

う新設工場建設など計画性に富んでいた。中国は二一世紀に世界の工場になると云われているだけに景興紙業もその例にもれず発展にかける意気込みとパワーのすごさを感じた。因みに朱董事長の年齢は三九才で、中国では躍進している会社のリーダーは若い人が多いそうだ。

タイミングよく景興紙業の新マシン設置時期に訪中出来たことで、この先このマシンにどのような原料を供給するか輸出の展望を開ききつかけとして取り組みたいと思う。

最後になりましたが、今回の視察に多大なご配慮、ご協力を賜りました朱董事長をはじめ紙パ商事、紙パ資源の関係者の皆様に心より深く感謝申し上げます。有難うございました。

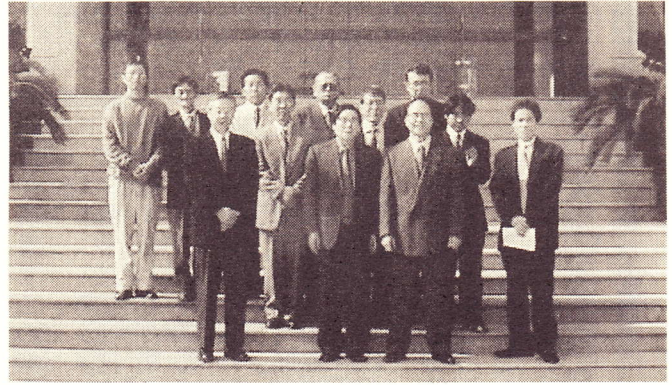
また、この中国視察の事業に対し、多額の負担をお願いしたにもかかわらず、その意義を理解の上、多数（十名）の組合員に参加して頂いたことに謝意を表したい。



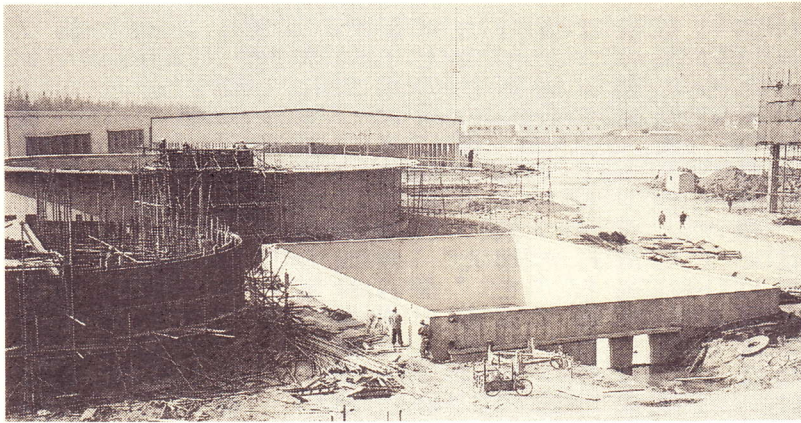
中国雑技団の妙技



水路を利用して小舟で
段ボール古紙の搬入



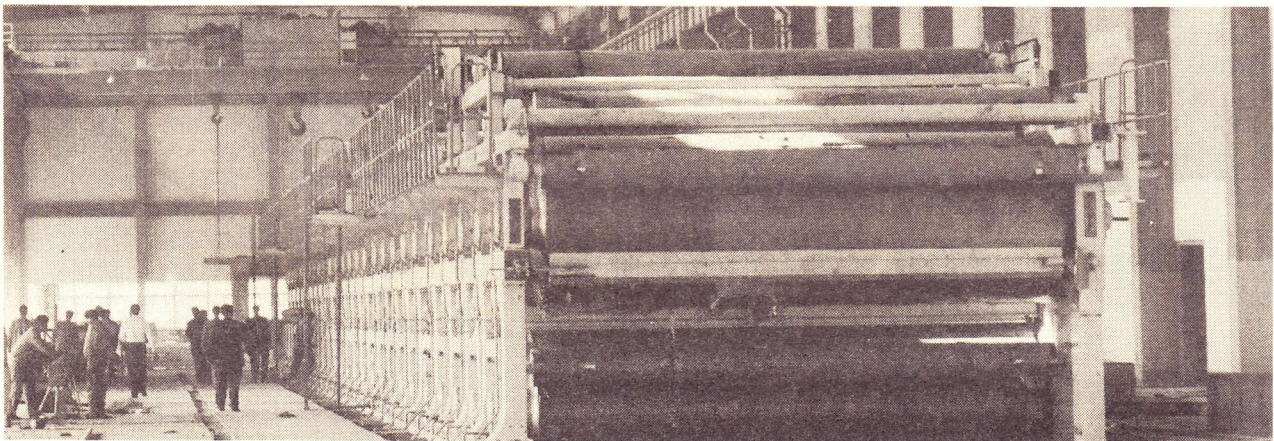
参加組合員と朱社長



新工場の広大な敷地に次々と諸設備が建設中



段ボール古紙のカゴを
二人で担ぎ上げる



今年4月本稼動する新工場に設置された乾燥ドラム



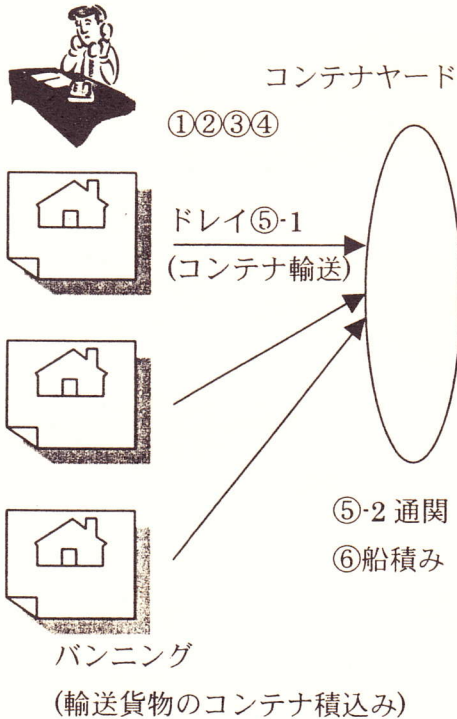
高層ビルが建ち並ぶ上海

古紙輸出の仕組み

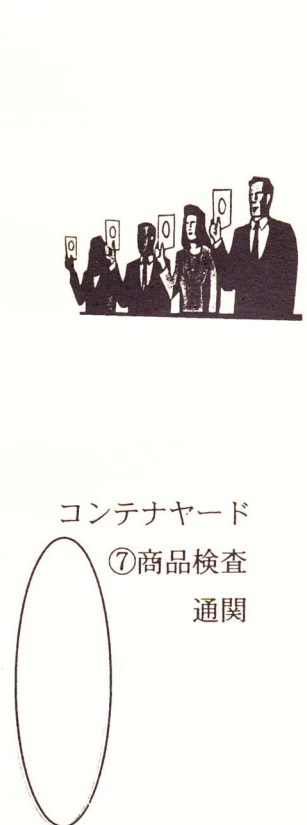
○輸出の手順

- ①海外の買い付け先を探す。(中国の場合は輸入ライセンスを持つ売り先に限られる。)
- ②納期・価格・到着港等の取り決めを買い付け先と行う。—輸出契約を結ぶ—
- ③上記2に合う船腹の予約(ブッキング)を行う。海上運賃、出港日の取り決め。
- ④船積み書類の作成。(Invoice、Packing List、Shipping Instruction)、保険付保
この船積み書類を乙仲(海運貨物取扱業者)に渡し、乙仲は税関に輸出申告し輸出許可書を取得する。
- ⑤乙仲は予約した船舶会社のコンテナヤードから空のコンテナをピックアップし、出港日までにバンニング=荷物の詰め込みを行い、Dock Receiptを作成し、輸出許可書とバン詰めが終わったコンテナをコンテナヤードに持ち込み通関手続きを行う。バンニングを国内の古紙ヤードで行い、コンテナヤードまで持ち込むことをドレイジと言う。
- ⑥コンテナヤードからの船積みは船会社が行う。
- ⑦その他 中国向けについては荷受検査(商品検査)を受ける必要がある。
—上記手順を経て取り引きが行われる。—

<国内古紙>



<輸出先国>



古紙リサイクルシステムの危機的状況を打開するために

多摩R団連フォーラムが開催される

去る平成一三年一月一七日（土）午後一時より、東京・府中市のルミエール府中・鳳凰の間で、多摩R団連フォーラム『資源リサイクルここが問題〜パート4〜』が、「古紙」をテーマにして開催されました。

始めに、(株)資源新報社・社長の太田原秀義氏による基調講演が行われました。

講演の中で太田原氏は、「現在の古紙リサイクルの状況は、回収量の面では進んでいるのに、古紙価格の値下がりということで、経済的な面では後退している。

原因としては、①製紙メーカー業界の集約化が進み、工場が遠隔地に移動しているため、古紙問屋にとつて運送に関する諸経費の負担が増えてきていること②製紙メーカー側が、市場原理を基にしてメーカー価格を決めていること③古紙の需給形態が以前と比べて変化してきているが、これに対応するための古紙回収業界と製紙メーカーとのパートナーシップが欠けていること④行政が、清掃事業の延長線上という考えで行っている行政回収によって回収量が増え、回

収部門では市場原理が働かなくなっていることなどが挙げられる。

このような古紙リサイクルの厳しい状況の打開策としては、①古紙・回収業界が中心的な役割を果たしながら、行政（市町村）と連携し、製紙メーカーに適正な価格で古紙を買ってもらえるように努力すること②物の生産段階でごみにならない製品、リサイクルしやすい製品を造り、これが達成されない場合は、生産者にリサイクル処理費用を負担してもらおう『拡大生産者責任』の体制を確立することなどが必要である。」と述べられました。

続いて、パネルディスカッションが、コーディネーターに山本耕平氏（株）ダイナックス都市環境研究所・所長）、パネラーに行政側から鬼頭孝典氏（町田市環境部・参事）と藤原哲重氏（小平市生活環境部リサイクル推進課・課長）、市民側から小石恵子氏（東京・多摩リサイクル市民連邦・副代表）と江尻京子氏（ごみ問題ジャーナリスト）、古紙回収・問屋業界側から皆川昇氏（東京製紙原料協同組合・副理事長）と当組合の紺野理

事長（古紙回収業界）を招いて行われました。

行政側は、「以前まで活発に行われていた地域の集団回収の伸び悩みと共に、可燃ごみの中にリサイクルに回せる紙がかなり多く混ざってきている。

その上、ごみの最終処分場の確保が困難になってきているという厳しい現状をふまえ、この悪循環を少しでも解消するために行政回収を開始せざるを得なかった。

行政回収を開始した結果、可燃ごみの量は減ってはきた。

しかし、行政としてはこの結果に甘んじることなく、リサイクルを清掃事業の延長線上として位置づけるだけではなしに、市民の皆様に對し分別の徹底やごみにならないものを買うということへの協力・負担を求めながら、古紙回収業界等と一体化し協力し合って、古紙リサイクルの問題に真剣に取り組んでいきたい。」と説明していました。

一方、これに對し市民側からは、「行政回収という新たな資源回収によって、既存の民間回収や集団回収が破綻してしまうことが懸念される。

しかし、古紙回収業界が、今までにこの厳しい状況を打開するた

めにどのような対応をしてきたのか市民にはよく見えなかった」という指摘もありました。

また、古紙回収業界側は、「我々業界としても、回収不能価格になった古紙をただごみ化するのではなくて、一〇〇パーセント回収し一〇〇%再利用できるような体制づくりを皆で議論して考えていきたい。

その一貫として、古紙の輸出も必要であり、積極的にその事業に取り組み始めた。

また、紙製品の生産・利用・販売企業等に対し、リサイクルしやすい物の生産とリサイクルコストの負担（拡大生産者責任）を要求していく活動にも、より一層積極的に取り組んでいきたい。」と述べていました。

結局、ディスカッションでは、更にシンポジウムを重ねようと結論を先送りしました。

しかし、将来的に古紙リサイクルシステムの円滑化を図っていくためには、紙を大量に使用する企業（新聞業界など）、市民、行政、古紙回収業界、製紙メーカーが皆で話し合いの場を持ちながら、一体化し協力し合っていく事が大切だということで、一応議論がまとまり、フォーラムは終了しました。

私の履歴書

古山商会

代表取締役 古山 忠

私は、昭和八年五月一日、新潟県加茂市で八人兄弟の六番目の子として生まれました。私の生まれた新潟県加茂市は、当時より日本有数の米所で、タンス・建具の名産地でした。また、私の実家は政府米を中心とした米や、酒・タバコなど何でも扱う萬屋でしたが、子供の頃はあまりお店の手伝いをしませんでした。

昭和二六年、高校卒業後に東京へ上京し、姉の嫁ぎ先で建場業(再生資源業)を営んでいた新宿区下落合の土田商店で、建場業の仕事を手伝い始めました。土田商店は、紙・古着・鉄屑などまとまった再生用資源物を専門の問屋に引き渡すという事業を営んでいました。当時私は、回収員がリヤカーで持ち込んでくる新聞・雑誌・びんなどを選別し、紐で縛って問屋に引き渡すという仕事をしていました。休みは一ヶ月に二日だけで、季節によって忙しい時と暇な時がありました。私は、田舎と仕事をしながら、一生懸命仕事をしています。特にお盆前と年末は大変に忙しく、年末には除夜の鐘を聞きながら資源物を整理

してしました。当時は、自転車のタイヤ・ガラスびんのカレット・玉(化粧品などに使う白い容器)などが高く売れました。

また私は、この土田商店で仕事をしている時期に、私と同じ新潟県出身の妻と結婚しました。この頃から私は、土田商店で仕事をしながら、この建場業(再生資源業)という仕事が将来的に安定した生活を保証できる職業だと思い、独立を考えるようになりました。

やがて昭和四六年、土田商店での仕事から独立し、現在の小平市鈴木町に建場業者(再生資源業者)として古山商会を開業しました。開業時には、地元の保健所から呼び出されて、建場業の許可をきちんととっているかどうかを問い詰められたこともありました。

独立後は、専属回収員(当時は四〜五人位いました。)がリヤカーで持ち込んでくる資源物を仕切って専門の問屋に引き渡すという、土田商店時代に体験した仕事を自らの商売として営んでいました。当時は、新聞・雑誌・古着・びんなど何でもいから買えば売れる時代で、朝八時から夕方まで丸一日かけて資源物を集めては問屋に売っていました。一方で、雨の日、暇なため仕事が休みであり、

雨が長く続けば、それだけお店の経営が苦しくなることもありました。

またこの頃は、チリ紙交換が一番流行っていた時代であり、一般家庭に回収に行く専属回収員に十円玉などの小銭(デモ銭)をわたして、後で清算していました。

さらに、鉄屑やステンレスなどの金属類は、解体業者から電話で片付けの依頼を受けて回収に行ったり、町工場と契約を結んで引き取りに行ったりしました。特にアルミサッシなどの非鉄類は、当時値段が非常に良く、集められるだけでうれしかったことを思い出します。

しかし、お店の周りは畑ばかりで農家が多かったため、土田商店時代に売ったような珍しい掘り出し物は、特にありませんでした。さらに、昭和四八年のオイルショックの時には、段ボールが1kg 50円程度売れるなど、今では考えられないぐらいに紙で儲けられたことは忘れられません。

こうしてお店を運営していく中で、近所の小金井公園で、社員の人達と年一回の花見大会をするのが楽しみでした。

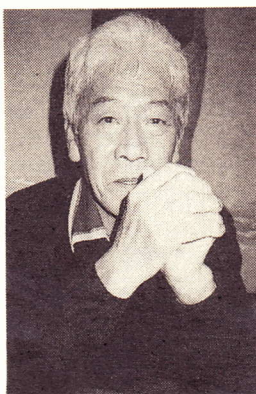
オイルショック後は、紙をはじめ金属類など、資源物の売値はほ

とんどが値下がりし、また、以前から集めていた解体くずは、現在では専門の業者が回収するようになり、私の所のような小さなお店には廻ってこなくなってしまうため、お店の経営も昔程の賑やかさはなくなっていました。

やがて、私は清瀬の東さん(当社の東資協田無支部長)に誘われて東資協に入り、さらに東多摩再資協が設立されてからは、組合員として現在に至るまで頑張っています。

現在では、子供たちは皆巣立ち、孫が三人いますが、普段は夫婦二人だけでお店を仕切りながら、趣味のお酒や将棋を楽しんでいます。また、昭和五三年に取得した車の免許を利用して、毎日自前のトラックを乗り回しながら、組合活動・集団回収・坪上の仕事に励んでいます。

将来的には、少しでも長くお店を続けながら、当組合の組合員としても頑張っていきたいと思っています。



行事・行動

【一〇月】

四日…日資連・理事会

…多摩R団連・幹事会

五日…古紙ネット交流会

一日…東京R団連・幹事会

…定例理事会

一七日…西東京市廃棄物減量審

一九日…東村山市廃棄物減量審

二一日…東村山市リサイクル祭

二五日…容器包装法研究委

二六日…東久留米市廃棄物減量審

二七日…古紙ネットシンポ

三一日…西東京市廃棄物減量審

【十一月】

二日…東村山市廃棄物減量審

九日…日資連リサイクル委

…多摩R団連・幹事会

一二日…定例理事会

一四日…西東京市廃棄物減量審

一七日…多摩R団連・フォーラム

一九日…東京R団連・幹事会

二〇日…広報委員会

二二日…東資協・輸出委員会

二三日…中国上海市視察

二六日… ” ”

二九日…容器包装法研究委

…古紙センター・業務委

三〇日…小平市古紙分析作業

【十二月】

三日…小平市古紙分析作業

四日…オフィス古紙サミット

五日…広報委員会

七日…組合RC忘年会

一一日…定例理事会

一二日…日資連・理事会

一四日…津田・河内氏叙勲祝賀会

一七日…古紙C・廃掃法勉強会

…広報委員会

一八日…東京R団連・幹事会

一九日…西東京市廃棄物減量審

…SY安全会議

…小平責任者会議

二〇日…新聞リサイクル会議

…財務委員会

二七日…広報委員会

二九日…仕事納め

読者の声

●都知事功労賞の受賞おめでとう
ございます。逆に、藤野さんのこ
とは本当に残念ですね。

(国分寺市在住・常松ひろしさん)

●この度は、理事長さんが知事功
労賞をお受けになったとの事、本
当におめでとうございました。心
よりおよろこび申し上げます。永
年の御苦勞が報われたのだと思い
ます。これからも御健康に留意さ
れ、益々活躍される事をお祈り
いたします。

(西東京市在住・深田久子さん)

ヴィーナ通信

●去る平成十三年十二月十四日

(金)、東京・赤坂プリンスホテル

で、春秋の勲五等瑞宝章を叙勲さ

れた津田栄一氏(株)津田商店代表

取締役社長、元東資協理事長)と

河内保男氏(株)河内商店代表取締

役社長、前理事長)を祝う東資協

主催の叙勲祝賀会が開催された。

祝賀会の中で、この会の発起人代

表を務めた当組合の紺野理事長が、

「東資協の歴代理事長が、揃って

勲五等瑞宝章を叙勲されたことは

大変うれしい。これは、お二人が

東資協理事長などの要職を全うさ

れ、中小企業の振興に多大な功績

を残されたことへの評価だと言え

る。お二人の理事長時代は、昭和

から平成への移行、バブル経済の

崩壊、業界の大きな変動という激

動の中で我々を新しい時代に導い

て頂いた。今後ともご指導を御願

いしたい。」と祝辞を述べた。

●去る平成十三年十一月三〇日

(金)と十二月三日(月)の二日

間にわたって、小平市で集められ

た雑誌の紙製容器包装・分別収集

実態調査が、紙パ資源(株)東村山事

業所で行なわれた。まず、三〇日

には当組合で雑誌の中から雑誌を

取り除く作業を行い、約五〇〇kg

の雑誌を集めた。続いて、三日に
は、古紙再生促進センター等から
調査員が来て、雑誌を紙箱・飲料
容器など数種類に分類した。調査
資料は、現在作成中である。

編集後記

洵快坊道玄様、直言拝聴へのご
寄稿有難うございました。

昨年度は古紙輸出が一四〇万ト
ン以上になり古紙回収量の一〇%
近くになったそうです。

工場の海外移転が進んでいます
から今年もかなり出て行くでしょ
う。組合としてどのように参加で
きるか検討しています。

今まで国内でしか考えなかった
販売先が海外にも広がりました。

ますます混迷の度合いを深める
日本経済ですが、知恵と努力を皆
で出し合って明るい業界にしてい
きましょう。

寒さはまだまだ続きます市民の
皆様、組合員、組合従業員の皆様
どうかお体に注意して風邪などひ
かないようにしてください。

今年は馬年ですから、元氣よく
跳ねて跳ねまくってどこまでジャ
ンプできるか楽しみな年にいたし
ましょう。

(吉浦高志)